

## 平成28年11月 国見町教育委員会 会議録

- 1、召集日時 平成28年11月14日(月) 午前10時
- 2、召集場所 県北中学校 ICT教室(1階)
- 3、議席指定 1番委員 石川 博利  
2番委員 志村 裕美  
3番委員 高橋 幸子  
4番委員 赤坂 正行  
5番委員 岡崎 忠昭
- 4、議事録書名人 2番委員 志村 裕美 5番委員 岡崎 忠昭
- 5、欠席委員 赤坂正行委員
- 6、説明のため出席  
教育次長兼学校教育課長 引地 由則  
幼児教育課長 中田 利枝  
生涯学習課長 羽根 洋一  
学校教育課指導主事 宍戸 正幸
- 7、書 記 学校教育課主任主査兼学校教育係長 黒澤敦子
- 8、開 会 午前10時
- 9、協議

### 1) 総合教育会議に向けて

赤坂委員(次長代読):『目標や希望を持つ子どもを育てるということで、地元企業や外部企業と連携して課外事業など体験学習を増やす。将来の夢、目標を持つために様々な仕事を知ってもらいたい。今見直されている農業や、IT企業、銀行、医療等に携わる方々に講師をお願いし、自分がなぜ、この仕事を選んだかなどを話していただき、仕事の楽しさを肌で感じてもらい、目標を持つことを植え付けたい。』赤坂委員よりこれら具体的に企業に頼んで子ども達の体験学習に提案したいと話があった。『成績向上に向けて、現在は、いい高校、いい大学に入るため塾に通う事が当たり前。でも、単純に塾に行けばいいだけなのか。学校の勉強についていけない子に重点を置いて指導を。授業だけでは勉強についていけない児童生徒、質問したくてもなかなか聞けない児童生徒向けの勉強の場をもってはどうか。課外、放課後の部分で設定してはどうか。町で公営塾の取り組みはできないか。先生方の負担が多いと思うが、閉校になっている学校を活用した塾の開校などもよいのでは。もちろん、学校だけではなく、家庭でもどのように勉強を教えたらよいか。親もわからないことが増えている現状だと思う。』

高橋議長:住民が生き生きと生活している町は、外からとても魅力的に見える。子どもたちの未来のために大人が生き生きと活躍している町であってほしい。このことが、私の根本である。国見町でも婚活に取り組んでおり、どの自治体も課題になっている。マイナスをプラスに変える発想で、先立たれる人、一度も結婚することがない人も含め、ひとりでも最後

まで安心して過ごせるようなシステムとして町がサポートできれば。「いきいきサロン」が盛んで、参加している人は楽しいが、ぬり絵など馬鹿らしいと思って参加しない人がいると聞く。引きこもりがちな男性の高齢者には「いきいきサロン」の講師として参加していただくなど生涯学習課との連携が図れたらよい。

家読の取り組みとして子どもの本を広める会が講師となり、保護者向けの講座をチラシで見ても良いことだと思った。夏休みの読書感想文は最後まで残り、親もどうしていいかわからない。子ども達に読書感想文の書かせ方の講座をPTAと連携して開催すれば面白い。

「書初め教室」は公民館でやっているが、ボランティアも忙しいなか手伝ってくれる。お茶一本でよいので、予算をお願いしたい。中学校の部活動問題について、コミスクだよりや中学校だよりを読むとかなり大きな課題であり、子どもも教員も減るので地域も保護者も危機感を持ち、積極的に協力する発想ができています。上手に利用してプラスに変えていく。地域がボランティアとして学校に入ったとき子ども達の感謝の言葉が喜びであるが、保険を掛けるなど気持ちを表すような予算確保が必要では。

石川委員：小学校統合して、子ども達も落ち着いて、教育環境もしっかり整っている。PTA、地域、学校、行政において読書活動などいろんな取り組みされ発展的に継続してほしい。環境整備として、中期的、長期的なものがあるが、中期的な施設整備は進んでいる。長期的には、学校施設の老朽化が進み、かなり予算も必要となることから施設整備の検討として場所の設定など都市整備も絡んでくるが行政として考えていく。特別支援が必要な児童の保護者の負担軽減を考えてほしい。コミスクの研修において、中学校の部活動の先生の負担と部活動の充実が、話題になっているところで、ますます子どもの人数が減り教師も減るなか、コミスクの検討で補えることができれば。国では、奨学金制度の返済不要の給付型を検討しているとのことだが、町の方向性はどのように考えているのか。

志村委員：国見の教育ビジョンのような形で子どもたちを中学校卒業まで見守り育てていければ、すごくよいものになる。いかに10年後、目標にどのくらい小学校、中学校、幼稚園が近づいてきているのか、中間で検討されると思うが、年ごとなり5年を経過していくなかで反省や軌道修正が必要になると思う。地域との関わりいろいろな形で子どもたちは育てられている。町や学校から与えられているいろんな状況で地域に関わっているが、地域に戻り我が家に戻るとまだまだ消極的である。教育ビジョンにもあるが家庭での教育の低下は反省させられる。いかに子どもを地域に出す、勉強させること読書させること、いろんなことに興味を持たせることに教育力の低下を感じる。地元に残って活躍できる大人や、地元に残っている若い子たちを含めて、子どもと地域をつなげることができれば良いと考えている。体協はソフトボールだけだが、そこには小学生、中学生、大人が混ざり地域のコミュニケーションが図られる。旧大木戸小学校が新しく歴史館になり小さいながらもコミュニティが作れる何かがあればいいと思う。学力、体力、心は子どもの3本柱である。英語と数学は小学校から積み重ねであり、中学校の応用でつまづいてしまったら理解するのが難しくなる。例えば、中学校は数学に力を入れる。通常の数学の先生を補佐する先生がいたり、英語の先生にはALTがいるからよいが、小学校でも算数を補助する先生として中学校の先生が来てくれている特色になればよい。いい高校、いい大学に入るための塾

の話があったが、最終的に何になりたいか、自分が目指すものがどの時点で決めるか。その課程として高校、大学があり、そこを私たちが間違わないように最終目標がどこにあるのかを見据えて高校、大学、就職、ひとりひとり違った未来を見据えたなかで、学習に落ちこぼれたときフォローができるシステムがあればよい。

引地次長：委員からいただいたものを箇条書きにして総合教育会議に提出する。

## ■ 教育委員 中学校授業参観 (10:30～11:10)

### 10、議題の上程

○議案第18号 平成28年度一般会計(教育費)補正予算について  
(事務局説明)

石川委員：義経腰掛松は、町指定を外しているが、今の位置づけはどのようになるのか。

羽根課長：江戸時代から続く名勝旧跡ということで、歴史を活かした町づくりに資する起債をいただく。初代の松の根が残っており、地域の人たちが代々見守ってきたことからこのたび町の名所として覆屋を造る。

高橋議長：承認してよいか。(異議なしの声)

高橋議長：議案第18号は承認された。

### 11、教育長事務報告

岡崎教育長：CS委員会中学校部活動について、来年度は教職員が2名減り、毎年5年間は教員が減る状態が続き、今の規模の半分程度になることから、部活動の再編計画が必要である。今までの延長で考えるというより地域スポーツの関連やスポ少などと連携しながら子ども達のスポーツを保障する必要がある。ヤングカレッジ事業について、先週、長野県白馬村を訪れ、県立高校の魅力づくりとして開設している公営塾を視察してきた。道の駅を活用しながら公営塾の対象として中学生、あるいは大学を目指す高校生にするか検討していく。スクールバスについて、運行から5年間の長期契約を更新する時期であり、今年度3回検討委員会を開催した。児童は減少するが3年間は停留所がなくなること、バス代の緩和措置などから、当面3年間は現状維持で運行する。子どもが減り、登下校時に一人で長く歩く子、集団の班が作れない、体力づくりの兼ね合いなど課題を考慮し、再検討が必要である。域内教育長会議にて、県内学校統合が進んでいる状況で、へき地にみなす学校がなくなってきており、新たに県北中、掛田小、柱沢小を県北教育事務所指定のみなしへき地の位置づけを了承した。今日、国見町長の当選証書付与式であった。

### 12、各課からの報告

学校教育課：①国見小暗渠工事を12月より始まる。

②中学校新人戦は、女子ソフトテニス部、男子バレーボール部が県3位であった。

③12月の教育委員会は教育総合会議を兼ねる。期日は後日お知らせする。

④コミスク主催教育フォーラムの参加依頼。

幼児教育課：①平成29年度町立藤田保育所、くにみ幼稚園申し込み状況について

②屋内遊び場「くにももたん広場」の利用状況について

生涯学習課：①国見ジュニア応援団活動について

②国見町文化財センター管理運営委員会の開催について

③市町村対抗福島大会について

④第18回国見町青少年健全育成推進大会（開催日変更）

⑤第35回伊達地方一周駅伝競走大会について

⑥平成29年国見町成人式について

13、その他

14、閉 会 午前11時55分

上記記録の正確なることを認めここに署名する。

平成28年11月14日

議事録書名人

2番委員

5番委員

会議書記

主任主査兼学校教育係長 黒澤敦子

■給食試食会 給食センターにおいて